



ナマズの知恵袋

平成28年(2016年)12月1日
編集・発行 滋賀県立図書館

温泉をさがす・調べる



当館では、参考資料室に水資料コーナーがあり、琵琶湖に関する資料をはじめ、水に関するあらゆる資料の収集に力を入れています。その中に「温泉」に関するものも千冊以上所蔵しており、ごく一部ですが、テーマに沿った資料を紹介します。

温泉ガイド

数ある温泉ガイドの中から、温泉地について調べる本と、良い旅館を探したい時に役立つ、温泉の達人によるガイドブックを紹介します。

■『47都道府県・温泉百科』山村順次著 丸善出版 2015年 [Y-4539-ヤ]

宿泊客数の多い温泉地を中心に、全国47都道府県の300の温泉地の立地、歴史、交通、特色を記述。付録として温泉地数、温泉数、宿泊施設数、利用人員等の一覧もあります。

■『温泉遺産 源泉かけ流しの宿と歴史的建造物、温泉文化のすべて』日本温泉遺産を守る会編 実業之日本社 2003年 [YB-4539-ニ] 源泉かけ流しの温泉が真の温泉であるという確固とした温泉観にもとづき、世界に誇れる温泉宿をカラーで紹介したムック。「温泉遺産全国MAP」付きです。

■『日本一周3016湯』高橋一喜著 幻冬舎 2014年 [Y-4539-タ] 北海道から鹿児島までの3000湯を目標に、温泉に入り尽くす旅にでた著者が、泉質や源泉かけ流しかどうかを重視して講評した本です。

■『湧くわく紀行 京都・滋賀の温泉めぐり』宮野智博著 京都新聞社 1999年 [S-2900-99]

滋賀にも、大小・新旧さまざまな温泉があります。本書は、京都22か所・滋賀17か所の温泉地をカラー写真入りで紹介しています。

温泉を科学する！



温泉に何も考えずに、ゆっくりつかののもいいですが、やっぱり気になるのは、温泉の「成分」や「効能」です。温泉を科学的に見るためには次の図書が便利です。

■『温泉の百科事典』阿岸祐幸[ほか]編 丸善出版 2012年 [Y-4539-オ]

「自然科学」「医療・保健・健康」「社会・経済・観光」「歴史・文化」と項目を分け、「自然科学」では、物理学や地質学、地球科学や工学など、温泉の科学面を詳しく紹介しています。

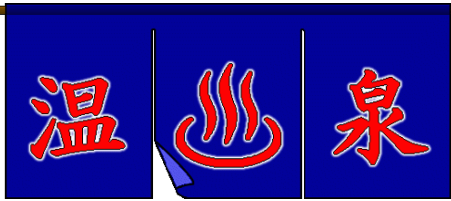
■『温泉手帳』松田忠徳著 東京書籍 2012年 [Y-4539-マ]

いわゆる旧泉質名をもとに、著者が独自に泉質を9つに分類し、その特徴と成分、効能を記載しています。泉質ごとに「入り方」が載っているので便利。泉質ごとの温泉案内もあります。

■『知るほどハマル!温泉の科学』松田忠徳著 技術評論社 2009年 [Y-4539-マ]

本書は、温泉に入って得られる癒しを単に気分的なものではなく、「科学」にその理由を求めています。温泉の医療効果、また予防医学としての湯治、脳科学的な効能などが記載されています。





温泉を民俗学的に読み解くと...

■『温泉図鑑 文化編』日本温泉協会 2010年 [YB-4539-コ]
「温泉発見伝説と信仰」、「温泉地の歴史」、「温泉入浴法」など温泉に関する豆知識は、この図鑑が最適です。他に自然編があります。

■『絵葉書の別府 古城俊秀コレクションより』松田法子著 左右社 2012年 [Y-4539-マ]

別府と言えば、全国有数の温泉地です。大分県の町の郵便局長を務めた著者が収集した6万枚の絵葉書の内、別府をテーマにしたよりすぐり600枚を掲載して、別府温泉の歴史を物語っています。

■『日本の温泉 東日本篇・西日本篇 絵葉書と鳥瞰図で見る明治・大正・昭和前期』小暮金太夫編 国書刊行会 1992年 [YB-2910-コ] 東日本篇の巻末に、「風景印に見る日本の温泉一覧」(昭和62年現在)があり、全国の温泉地にある郵便局約248局の風景印(温泉地ゆかりの消印)を一覧にしています。29年経った現在でもほとんど存在します。(スタンプの請求は、各郵便局にお問い合わせください。)

■『錦絵にみる日本の温泉』小暮金太夫編 国書刊行会 2003年 [Y-4539-コ]

色鮮やかな錦絵は眺めるだけで楽しくなります。巻末の「温泉番付」は江戸時代唯一の温泉資料でした。

■『江戸の温泉三昧』鈴木一夫著 岩田書院 2010年 [Y-3836-ス] 江戸時代、温泉は一大ブームでした。

■『温泉と日本人』増補版 八岩まどか著 青弓社 2002年 [Y-4539-ヤ]

「縄文人も温泉好き?」、「勤王の志士が集った温泉」、「毛の生える温泉」などなど



🌀ゲージツは温泉だ🌀

作家と温泉なんて……と思いきや、意外や意外、両者は、その湯温と同じくらいホットな関係にあります。

■『温泉文学論』川村湊著 新潮社 2007年 [Y-9102-カ]

■『作家と温泉 お湯から生まれた27の文学』草薙洋平編 河出書房新社 2011年 [Y-9102-ク]
この2冊では、夏目漱石『坊ちゃん』、尾崎紅葉『金色夜叉』、川端康成『雪国』、志賀直哉『城の崎にて』、松本清張『天城越え』等々……明治の昔から現代にいたるまで、湯気のように途切れることなく、温泉地を舞台とする小説が生み出されてきた背景と、その魅力に迫ります。

■『温泉小説』富岡幸一郎監修 アーツ・アンド・クラフツ 2006年 [Y-9138-ト]

■『温泉へ行こう』山口瞳著 新潮社 1992年(第1刷:1985年) [Y-4539-ヤ]

『温泉小説』は、戦前の泉鏡花や太宰治から、戦後の井伏鱒二や筒井康隆・中上健次等、名だたる文豪の筆になる「温泉を描いた小説」のアンソロジー。

『温泉へ行こう』は、戦後を代表する作家・エッセイストによる紀行文の逸品です。

■『温泉主義』横尾忠則著 新潮社 2008年 [Y-4539-ヨ]

■『つげ義春の温泉』つげ義春著 カタログハウス 2003年 [Y-4539-ツ]

いずれも、アーティストである著者によるイラスト等が随所に盛り込まれた、視覚的にも楽しい書物です。

■『温泉文学事典』浦西和彦編 和泉書院 2016年 [Y-9102-ウ]

本邦初、温泉について書かれたエッセイや小説を事典項目にして編集された近代文学事典です。

雑誌で調べる

■「温泉(季刊)」日本温泉協会 1930年創刊 今年87年目を迎える老舗雑誌です。

当館では、1991年から所蔵があり、全国の温泉地の最新動向や入浴法、観光の見どころ、「女将のつぶやき」等の充実のコラムや、ちょっとした豆知識コーナーまで、役立つ情報が満載です。

■「温泉科学」日本温泉科学会 1941年に創刊 温泉に関する学術雑誌です。

当館は創刊号から所蔵しています(一部欠号あり)。温泉科学に関する論文や解説、技術報告などのほかに、温泉地紹介や温泉行政に関する論文も掲載されています。